

【第 1 部】

「民都・大阪」フィランソロピー
会議の設立経過

1. 「民都・大阪」フィランソロピー会議とは

「民都・大阪」フィランソロピー会議の設立について（平成30年2月5日）

わが国において、NPOや社会的企業など新たな公共の担い手の増加、CSR（企業の社会的責任）への関心が進む一方、世界では、寄附や投資等を通じた公益活動が、社会的課題解決の第三の道として新たな時代の潮流となっている。

都市発展の歴史において民の力が大きな役割を果たしてきた大阪は、「民」主役の社会づくりを発信する「民都」として、フィランソロピーの促進により、税による分配ではない第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を取り込み、非営利セクターの活性化を通じて、「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」を目指している。

そこで、多様な担い手が、法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、それぞれが公益活動を担う主体だということを再認識し、大阪の民の連携・協力によりその存在感を国内外に示す「核となる場」として、「民都・大阪」フィランソロピー会議を設立することとした。

【検討の背景】

- ・大阪は、これまで、東西二極の一極を担う都市・大阪の確立に向け、中長期的な取り組み方向を検討することになった。
- ・今世紀はかつて経験したことのない富裕層を生み出し、世界では「フィランソロピー」への関心が高まりつつある。この動きは、米国、欧州、中国、台湾、インドなどで次々と活発化して、「フィランソロピーの黄金時代」を迎えたと呼ばれるようになった。
- ・わが国でも、クラウドファンディングなどのすそ野の広い寄附の発達のほか、既存組織への自社株の寄附を行う者、海外からの寄附を行う者、全財産の寄附宣言を行う者なども現れ、「フィランソロピー元年」宣言がなされるなど、ここかしこでこの傾向が出始めてきている。
- ・ただし、わが国においては、財団設立後の活動が規制によって強く制約されると受け止められていること、寄附先の対象となるサードセクターが法人種別ごとに分断

化して寄附先としての魅力に欠けると思われていることなどから、その潜在的な可能性を十分に引き出せていない。

- ・この事態を拱手傍観していれば、フィランソロピーを十分に活性化させないばかりではなく、仮に寄附があったとしてもその資金も東京へ集中し、結局、一極集中を加速させかねない。
- ・そこで、大阪においてサードセクターの力を結束させ、フィランソロピーの促進により第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を大阪に取り込み、非営利セクターの活性化を通じて、大阪が「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」を目指すこととなった。

【目的】

- ・国内外に対して「大阪フィランソロピー都市宣言」を行うことで、第2の動脈を大阪に取り込む。
- ・これまでにない連携や協働を生み出し、資金・人材の確保や情報発信などにおいて新たな取組みを進め、社会的課題解決につなげる。
- ・また、これらを通じて、次世代を担う人材の支援などを行い、新たな産業・市場・雇用の創出、大阪の成長にもつなげていく。

【会議の5原則】

1. 中長期的に東京一極集中を打破することを目的とするものであること。
2. 「民都・大阪」を目指したものであること。
3. 官と民との新しい協力から生まれるものであること。
4. 基礎自治体のNPO政策を阻害するものではないこと。
5. 縦割りの施策を面（地域）として捉えなおし、これまでにない連携や協働を生み出すことを目指すこと。

【会議の構成】

- ・官民が協力しあう民間組織（大阪方式）を目指す。
- ・サードセクター及び社会的企業のトップ層、有識者、府及び市幹部から構成。
- ・包摂的組織として分科会を設け、会議としての開放性を担保する。

2. 設立の経過

(1) 副首都推進本部における議論

本会議の設立、その後の活動は、第1回副首都推進本部会議（平成27年12月28日）において、大阪が目ざすべき「副首都」について、大阪府知事、大阪市長、特別顧問らが意見を交わした内容がその根幹となっている。以下に意見交換の要旨を記載する。

- ・単に大阪の地盤沈下をどうするかということよりも、もっと大きく、日本の国家の形を変えていく積極的な役割を大阪が担う意味で副首都を捉えるべき。
- ・官の都である東京に対し、大阪は経済の都であり、民都。道頓堀の道頓も、淀屋橋の淀屋も、みんな民間の経済人の力によってつくられた。
- ・首都である東京に政府機関が集中。副首都として、東京にある政府機関を大阪に移転することも考えるべきではあるが、そこに留まらず、違う発想が必要。
- ・政府でもなく企業でもない非営利法人からなるサードセクターについて、法人格ごとの所管省庁の枠組を超え、全体をまとめた公益庁という新しい概念を打ち出すべき。
- ・公益を担う人たち、非営利法人や社会的企業が大阪に立地をする、そういう人たちが大阪でやっていくということの重要性が高くなっていく。
- ・政府が全て税金を集めて分配するのではなく、自分が稼いだものを自分の判断で分配するフィランソロピーの考え方が、世界的に大きな潮流。第2の動脈というべき資金の流れを作るべき。
- ・公益庁の仕組みを国で作るとなれば時間がかかる。まず大阪からスタートさせようとするれば寄附文化を変えなければならない。寄附税制の特例をつくることもキーになる。
- ・これまでは税の使い方を国・役所が統制。財務省の徴税に対するもう一つの新たな選択肢をつくっていく。
- ・政府や企業だけでなく第三の道、フィランソロピー・キャピタル構想というものをもって先取りして、この国の硬直した体制を変える可能性を期待したい。大阪から新しい国のあり方を示す、これが一番大事。

(2) 副首都ビジョンにおける位置付け

「フィランソロピー都市・大阪に向けて」

日本国内において、NPOや社会的企業など新たな公共の担い手の増加、CSR（企業の社会的責任）への関心が進む一方、世界では、寄附や投資等を通じた公益活動（フィランソロピー）が、社会的課題解決の第三の道として新たな時代の潮流となっています。

大阪では、都市発展の歴史において民の力が大きな役割を果たしてきました。今日も、民間の活力を発揮できる環境づくりを進めています。

大阪は、官の発想を超える民間のダイナミズムを社会の中心に据え、営利・非営利活動を最大限に活かせる環境づくりを進め、「民」主役の社会づくりを発信する「民都」として、フィランソロピーの促進により、税による分配ではない第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を取り込み、非営利セクターの活性化を通じて、「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」をめざします。

（平成29年3月「副首都ビジョン」より）

(3) (仮称)大阪フィランソロピー会議に向けた準備会

【第1回】

開催日：平成29年4月18日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：(仮称)大阪フィランソロピー会議に向けて

【第2回】

開催日：平成29年5月19日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：(仮称)大阪フィランソロピー会議に向けて

【第3回】

開催日：平成29年6月16日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：(仮称)大阪フィランソロピー会議に向けて

【第4回】

開催日：平成29年7月21日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：大阪フィランソロピー促進会議に向けて

【第5回】

開催日：平成29年8月23日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：「民都・大阪」フィランソロピー会議に向けて

【第6回】

開催日：平成29年9月25日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議題：「民都・大阪」フィランソロピー会議に向けて

【第7回】

開 催 日：平成29年11月2日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議 題：分科会の設置について

【第8回】

開 催 日：平成29年11月22日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議 題：

1. 「民都・大阪」フィランソロピー会議について
2. フィランソロピー都市宣言の枠組み等について
3. フィランソロピー大会について（仮称）大阪フィランソロピー会議に向けて

【第9回】

開 催 日：平成29年12月20日

開催場所：大阪市役所5階副首都推進局会議室

議 題：

1. 第1回「民都・大阪」フィランソロピー会議の開催について
2. フィランソロピー都市宣言について
3. フィランソロピー大会について

各会議内容の詳細については、大阪府または大阪市のホームページをご覧ください。

大阪府HP：

<http://www.pref.osaka.lg.jp/renkeichosei/fukusyutosuishin/fukushutovision6.html>

大阪市HP：

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushutotsuishin/page/0000397784.html>